

〔シンポジウム〕

救急疾患の初期治療*

於 東京女子医科大学学会第44回総会

日時 昭和53年9月30日(土曜日)

会場 東京女子医科大学本部講堂

司会者 織畑 秀夫教授

- 1) 心疾患の救急医療
(心研内科) 高橋 早苗助手
- 2) 急性呼吸不全の病態と治療
(呼吸器内科) 金野 公郎教授
- 3) 代謝性昏睡の初期治療
(糖尿病センター) 平田 幸正教授
- 4) 緊急外科治療を必要とする胸部疾患
(第一外科心研外科) 和田 寿郎教授
- 5) 熱傷ショックの初期治療
(形成外科) 平山 峻教授
- 6) 東京女子医大脳神経センター ICU における手術数の推移
—脳神経外科救急医療の現況—
(脳神経外科) 天野 恵市助教授
- 7) 小児科における救急医療の実際
—特に新生児集中医療を中心に—
(小児科) 山口規容子講師
- 8) 腹部外傷の初期診療
(外科) 倉光 秀磨助教授

司会者 序言

織畑 秀夫

今回、救急疾患の初期治療がシンポジウムにとりあげられた経過について少し述べさせて戴きます。

実は昨年秋頃に評議員会で本年のシンポジウムの題が論議された時に、たまたま本年4月から救急医療センターを東京都から依頼される下話しが決まったところでして、従来それまで約1年程行なっている休日夜間の二次救急診療も東京都の依頼で行なつてきましたことも関連して、この救急治療のテーマが採用され、そして丁度、救急診療部長をしている私に、司会が命ぜられた次第です。

以前にも似たようなテーマでシンポジウムが行なわれたことがありましたが、この問題は最近、特に新病棟の増築と共に、救急医療センターが活躍している本学にとっては大変に意義深いものがあると思います。

本日は各方面の専門の先生方に特に重要と思われる救急疾患の初期治療について解説して戴きますので、学生諸君にも役立つと思つて、出席の多いことを期待しましたが、残念ながら余りおられないようですが、後から雑誌に載つたものを参考にして戴くこととして、それでは各先生方のご発表を戴いて、その後でまとめて討論することに致したいと思います。

* Early treatments for emergency cases